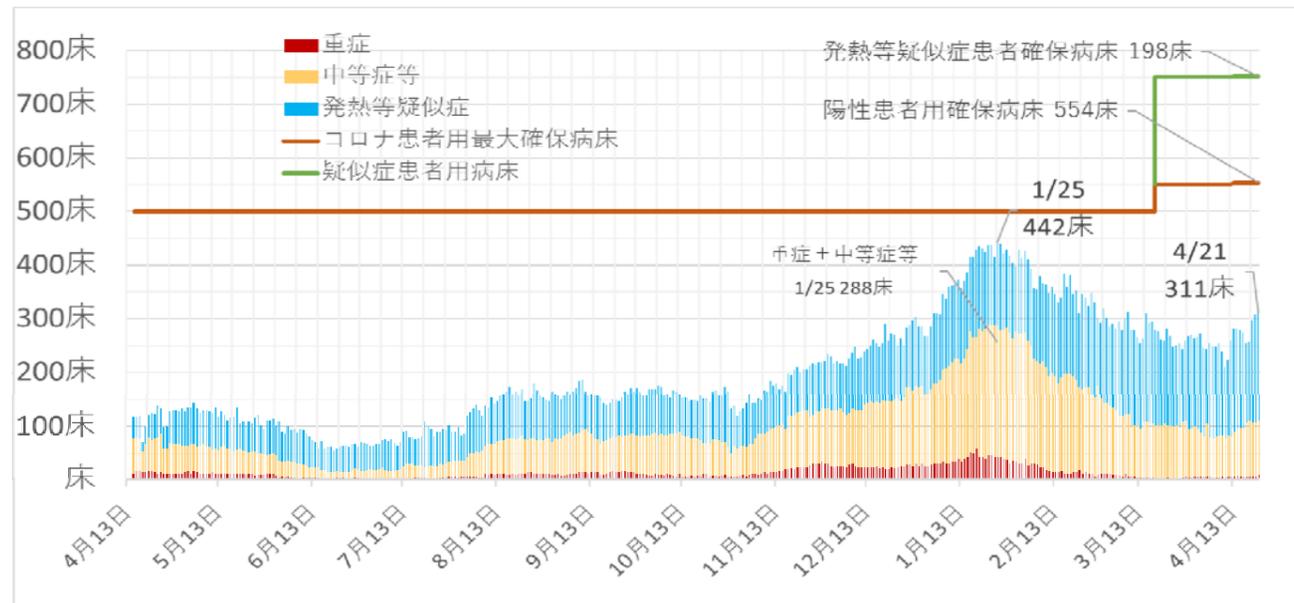


# 今後の感染拡大（第4波）に備えた新型コロナウイルス感染症の医療提供体制について

健康福祉・医療委員会  
令和3年4月23日  
医療局

## 1 病床の使用状況（令和3年4月21日時点）

第3波では、新規陽性患者数が1月初旬以降急拡大する中で入院患者数も増加し、1月25日には、横浜市が確保した病床に最大となる**288人の陽性患者が入院**しました。発熱等コロナを疑う患者さんを含めると、**442人**が入院し、病床がひっ迫しました。



## 2 第4波に向けた病床の確保

第3波を踏まえ、第4波に向けて、神奈川モデルのもと、市内医療機関の御協力をいただき、必要な病床を確保しています。

### <第3波の課題>

- 入院患者数(陽性者)が最大288人となった

2倍確保

### <第4波への対応>

- 陽性患者用病床 **554床**  
(うち、重症 86床)

- 発熱等疑似症患者にも陽性患者用病床で対応

機能別に  
病床確保

- 発熱等疑似症患者用病床 **198床**
- 後方支援病床 **173床**

- コロナの症状が軽快した後も引き続き陽性患者用病床に入院

**※合計 64病院・925床**

⇒確保病床（500床）がひっ迫

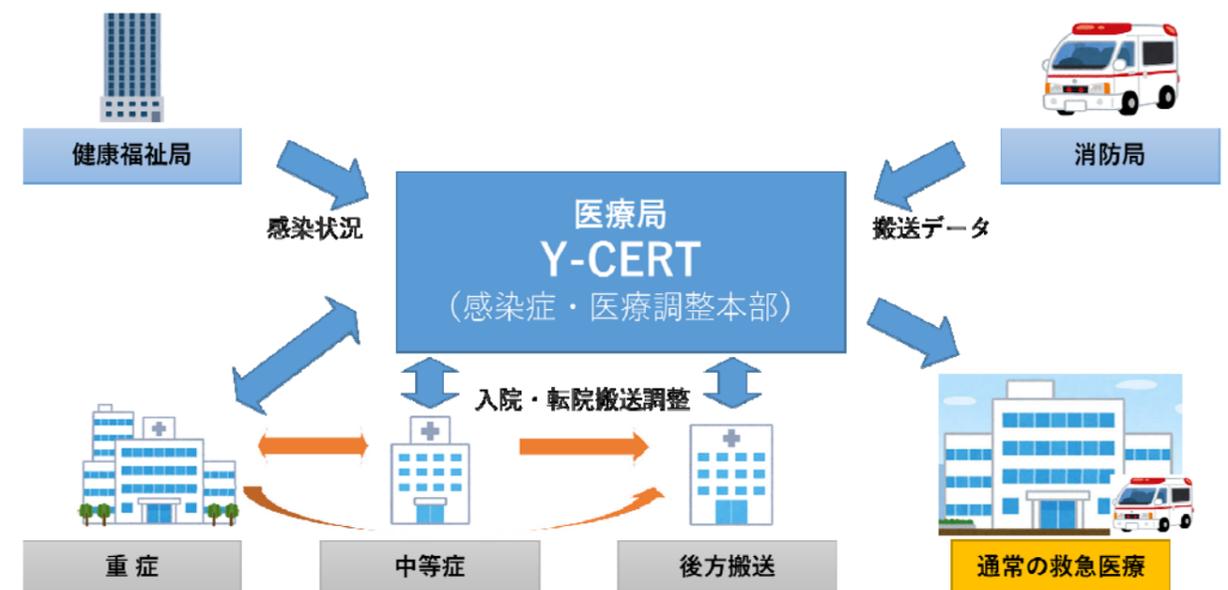
(県立病院を除く)

## 3 Y-CERTの体制強化

市内のコロナ受入病床を十分に活用するため、入院・転院調整や搬送調整を医師、保健所、消防局等と一体となって進めています。

令和3年4月から、**課長級以下6名**を新たに配置し、**専任化**することで、執行体制を強化しています。

さらに、**感染拡大時には、医師(市内救命救急センター長、市医師会、市病院協会)が常駐する「Y-CERT特別対策チーム」を編成**します。



## 4 横浜市の各フェーズにおける病床数

神奈川モデルのフェーズに基づき、市内の入院患者の増加状況等を総合的に判断し、確保病床を拡充していきます。感染拡大の状況に応じ確保した病床を稼働させることで、**通常の一般医療と感染症医療との両立**を図ります。

	病床確保 フェーズ1	病床確保 フェーズ2	病床確保 フェーズ3	病床確保 フェーズ4
陽性患者用の 病床数	278床	372床	470床	554床
地域医療体制	原則として平時医療を継続		一部医療の抑制	

(県立病院を除く)

※上記の病床とは別に、発熱等疑似症患者用の病床198床と後方支援病床173床を確保しています。

※フェーズの移行は神奈川モデルのもと、入院患者の増加状況等を総合的に判断し、認定医療機関に要請します。